



帯広市では、社会総掛かりで子どもの学びと育ちを支える仕組みづくりを進めています。コミュニティ・スクール（CS）は、学校・家庭・地域が目標を共有して、ともに子どもを育てていく取り組みです。

令和5年度 第1回コミュニティ・スクール研修会を開催しました

令和5年8月23日(水)に、小学校のCS委員やPTA、教職員等を対象としたコミュニティ・スクール研修会を開催しました。



前半は、地域活動の事例発表として、学校支援アドバイザーの保前明美様から、緑丘小学校でCSが始まった経過や、夏祭りに向けて学校に関わる団体が協力していく様子などをコミュニティ・スクールの制度についての説明を交えながらお話していただきました。

発表の中では、令和元年度にコミュニティ・スクールが始まり、本格的に活動を開始しようとしたところでコロナ禍となってしまったものの、地域と学校とで話し合い、コロナ禍でも子どもたちのためにできる「クリーン作戦」や、「書道大会」を企画し、実施した様子が語られました。

また、今年の8月5日に行われた夏祭りを例に、地域学校協働活動を行うために必要なポイントを具体的に示していただき、参加した方々からは「貴重な取組を知ることができて大変参考になった」と感想をいただきました。

後半は、参加者が興味のある話題ごとに、所属する学校の異なる3～5人のグループになっていただき、情報交換を行いました。自己紹介をした後に、各地域の取り組みや課題についてお互いの情報を出し合いました。

一通り情報交換をしたあと、その中から浮かんできた「今行っている活動を次の世代にどうやってつないでいくか」を共通の課題として設定し、再びグループでこの課題について話し合っていました。

課題「次の世代に活動をつなげていくには？」



各団体の活動をつなげられるコーディネーターがいれば団体同士で助け合い、活動を広げることができる。

小中とわけるのではなくエリアの中で協力し、人材を共有して活動できれば、人不足解消につながると思う。



中高や地元企業にも協力してもらうことができている。保護者や地域には身近なところから声をかけて引き込んでいる。

講師よりまとめ

100%の答えはない中で、コーディネーターはもちろん大事だけどエリアや中高生に協力してもらおうのは答えに近い、良いアイデアでした。



研修会に関するアンケートからご意見を紹介します

研修後のアンケートでは、様々なご意見をいただきました。一部ではありますが、ご紹介します。

- ・「コミスクについて初心者なので、具体的な取組みやこれまでの経緯がわかり、良かったです。」
- ・「情報交換は4人のメンバーでしたが、全員、別々の年代、立場からの意見だったのでとても学びが多かったです。」
- ・「他校との情報交流の場となり、助かりました。」
- ・「情報交換の時間は、同じテーブルの皆さんがそれぞれ別の活動をしていて、お話しをするだけで楽しくてあっという間でした。」

皆様からいただいたご意見を参考に、今後の研修会などの企画を行っていきます。アンケートにご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

10月13日(金)には、中学校・義務教育学校に関わる方を主に対象とした研修会を実施する予定ですので、ぜひご参加ください。

【発行・問合せ先】

帯広市教育委員会 学校教育部 教育総務室 学校地域連携課

TEL : 0155-65-4162

Email : school_cooperation@city.obihiro.hokkaido.jp

帯広市 コミュニティ・スクール

検索

(令和5年9月1日発行)

